

① 2016年度の営業状況は、記事によると売上高は前年度並み、入館者数は1割弱減っています。何を意味しているのか、本文中から抜き出しましょう。

1人当たりの客単価と買い上げ率が上がった

② 映画館や複合衣料、生活雑貨店が売り上げをけん引した理由を説明してください。



売り上げ、入館者数ともに目標をクリアしたアミュプラザおおいた＝13日、大分市

JR大分シティは「入館 飲食店の売り上げが減少。者数は減少したが、1人当 熊本・大分地震の影響で一 通りの客単価と買い上げ率 時、需要が落ち込んだ土産 が上がったことで、好調な 物も15年度には届かなかつ 売り上げを維持した」と分 析した。一般的な客層の20 17年度は、会員数が増え 30代に加え、40～50代の ているクレジットカードの 利用者も多く来場。幅広い 活用やテナントスタッフの 客層が利用する映画館や複 人員強化に取り組む。加え 合衣料、生活雑貨店などが て、これまでは街なかを中 売り上げをけん引した。 心に実施していた連携施策 を拡充。地域・スポーツイ ベント、行政関係施設など 積極的に誘致し、新たな魅 力をアピールしたことも好 調につながった。その他▽ 誘客・集客を図る。JR大 分シティは「本年度も駅ビ ルの楽しさ、新しさを提案 してファンを増やし、大分 県を盛り上げていきたい」としている。

話題性のあるショップを 一方、入館者数に運動し、

（衣笠由布妃）

JR大分駅ビル(大分市)の商業施設アミュプラザおおいたの管理運営会社JR大分シティは13日、2016年度の営業状況を発表した。売上高は前年度並みの22億3千万円。入館者数は15年度比91・6%の22万2千人となった。売り上げ、入館者数ともに目標(2億1000万円・2千万人)を達成。同社は「開業効果の反動や地震の影響を受けた中、15年度並みの売り上げを確保したことは評価している」と開業2年目を総括した。

アミュプラザの昨年度売上高
初年度並み22億3千万円

映画館や衣料がけん引

(2017年4月14日付朝刊県政面)

幅広い年齢層が利用した

③ 皆さんはどんな時に駅ビルを利用しますか？ 隣の席の人と話し合ってみましょう。

映画？ 服？ スイーツ？ 文具？ それともお土産？